

大町病院を守る会会報

No. 30

2014年1月発行

大町病院を守る会

発行責任者北村喜男

峻馬の如く躍進の年

今年も元気に頑張ろう

年頭のあいさつ 会長 北村喜男

あけましておめでとうございます。

昨年は、会員の皆様の力強いご協力によりまして、様々な取り組みをしてまいりました。

大町病院は今日も続く医師不足、耐震改修によるベット数の制限などのため、入院患者が大きく減少し、大変な危機になっています。大町病院の危機と頑張りを知って県や信州大学病院、松本市立病院など医療関係機関から、不足する医師をカバーするために医師を大勢派遣していただいております。また信大教授の中澤勇一先生も自ら週2回、総合診療科で対応していただいております。また市内の開業医の皆様にも支援を受けるなど多くの方々に支えられております。

さて、大町病院では県の地域医療再生事業による補助金を受け25年度から27年度までの3年間で、がん診療、救急医療の充実と災害拠点病院としての機能を充実してくため大規模施設整備を行ないました。医療器械の整備ではMRIやCTなどの高額医療器械の更新をはじめ、内視鏡、手術室の器械整備を実施していく予定です。血管撮影装置や移動式X線など救急医療に欠くことのできない機器も整備し医療機器の充実を図ります。施設整備では、東側駐車場の現プレハブ棟の位置に2階建ての新棟を建設し、大災害時における傷病者の受け入れ施設（講堂）や内視鏡室、血管撮影室などを整備していくほか、正面玄関に近い場所に市民も利用できる食堂も設置する予定です。

耐震改修が今年度3月末で竣工することになっておりますが、県からの補助を受け、引き続き大きな投資を行なっていくこととなります。また、この設備投資により医師の招聘や医療の質の向上につながることを期待されます。幸い、今年は信大附属病院に総合診療科が設置され、信大病院と大町病院は連携し高齢化の進む大北地域の医療の質を高めていくことになりました。総合診療科の充実をはじめ医師の確保で明るい兆しが見えてきているとお聞きし、地域医療確保のため、今後も大町病院の応援団としていっそう頑張りたいと思います。

大町病院は太平洋戦争当時、戦線への従軍により日本人医師が一人もいなくなった時期があります。その時、台湾から来た5人の医師によって大町病院は支えられました。困難な時期を乗り越えてきた大町病院を何としても私たちの力で守っていかなければなりません。皆様のご協力をお願いし、年頭のあいさつとします。頑張りましょう。



大町、白馬の地域懇談会に 120 名が熱心に

第 2 次医療圏で脳疾患など緊急医療の対処に強い要望

11 月 20 日大町商工会議所併設多目的ホール、25 日、白馬村総合福祉ふれあいセンターを会場に大町病院と守る会主催による地域医療懇談会が開催されました。両会場には熱心に医療を考える住民が訪れました。大町会場では山田博美事業管理者、高木哲副院長、白馬会場では井上善博院長、高木哲副院長が大北医療圏の現状と課題、大町病院の対応についてお話をいただきました。守る会もパワーポイントでこれまでの活動を説明、守る会に新たに 5 人の方が加入されました。

大町地区報告要旨



狭い多目的ホール会場へ補助いすを搬入し 70 名余が参加し江津幹事の司会で始まりました。北村会長が開会・主催者挨拶、病院からの説明と進行をしました。

「病院は今年から 3 年間、県からの補助金を受け大きな施設建設事業と、高額な医療機器の更新をし住民の要望に応じていきます。内視鏡室の拡充、災害時の傷病者受け入れ施設などの新設をすすめて

いきます。

「来年は、信大総合診療科設置に伴う関連病院の指定を受けるなど、いくつかの科で医師の増員ができる見込みです。リハビリスタッフの充実もはかります。」と説明があった。参加者から「重複疾患を持つ高齢者にとって総合診療科の存在は心強く、ぜひ充実してほしい。」との要望が出されました。

白馬地区報告要旨

激しい雨の中、小谷・白馬の住民の方々に大勢集まっていただきました。

大北 2 次医療圏として、安曇病院との連携をしながら大町病院の充実を望む声が多く出されました。また小谷村村長の松本久志さんより「安曇病院との連携を密にし、特に救急医療の脳疾患、心臓疾患は一刻を争う病気だ。対応できる体制を確立し住民の生命を守ってほしい。」との強い要望が出されました。井上院長から「安曇病院との連携では両病院の院長が定期的に会合を持ち、お互いの認識を一致させる努力を始めています。」「脳疾患対応はこれまでより力を入れて居り来年はより進んだ状況が期待できます。」とお話がありました。



救急の医療体制の充実は厳しい状況だが、新年度はその努力が報われる見込みで、医師確保に明るい光が射してきたと言えそうです。

懇談会は病院からのお話として

- ・「市立大町総合病院の現状と課題」・・・副院長 高木哲 医師
- ・「今後の病院の在り方について」・・・(大町会場) 事業管理者 山田博美 医師
(白馬会場) 院長 井上善博 医師
- ・その他 ・守る会の取り組みの順で進行されました。

北村会長あいさつ要旨

「民間病院の傘下になったらどうか」と言う声を聞きます。しかし民間病院となれば採算に合わない医療は廃止され、病院事業から撤退することもあり得ます。全国でも公立病院が休・廃止され、再開するまでには莫大な時間と費用が必要であり再開ができない状況にもなっています。銚子市民病院をはじめ全国の自治体病院の経緯をみると病院が如何にもろいものであり、住民の生命や健康を守るには住民が地域医療を守る強い意志を持つことが必要です。今日は問題点を出し合って、大町病院存続の為にその在り方を議論してください。

県地域医療シンポジウム開催される

「守る会」北村会長パネリストに



12月15日(日)諏訪市文化会館で県主催の「地域医療をともに考えるシンポジウム」が開催されました。基調講演では『地域医療はおもろいで!』と題して隠岐広域連立立隠岐島前病院長：白石義彦先生が講演しました。講演を受けてパネルディスカッションでは森哲夫：信州医療センター院長、小口寿夫：諏訪赤十字病院名誉院長、鈴木永：うえだ百勇士会事務局長、須田秀枝：安心して安全な出産ができる環境を考える会 in 伊南代表、長谷川学：厚生労働省医政局課長補佐、眞鍋馨：県健康福祉部長、北村喜男：大町病院を守る会会長、コーディネータ飯島裕一信濃毎日新聞社編集委員のもとで発表がされました。「大町病院を守る会」の病院支援の取り組みを、北村会長がパワーポイントを使い発表しました。大町病院の応援団として3年半に及ぶ取り組みの発表が注目を集めました。県健康福祉部眞鍋馨部長はまとめて、「県はこのシンポジウムを7回、県下各地で開催してきたが大きな成果として、大町で開いた後では大町病院を守る会ができ・・・」と守る会を高く評価されました。大町からは会員、病院職員など10名が参加しました。

カモシカ学習会で医師・職員と懇談 一生懸命働く病院スタッフを全力で応援

12月16日
(月) 夕方より大町病院
大会議室で、
病院職員対象に
行われている「カモシカ学習会」
が開かれ、
守る会の報告
が行われました。
病院職員53名と
守る会役員10
名が参加しました。
また、報告の後、
意見交換が
されました。



冒頭北村会長は「昭和2年建設され長野県でも最も古い伝統ある大町病院が誕生して87年を迎えます。昭和20年太平洋戦争で日本人医師がいなくなった後を、大町町長が台湾から5人の医師を招へいし大北地域の健康と命を守っていただき大町病院は存続した。今、病院の危機は再び訪れています。守る会は微力ではありますが、大町病院の存続を求めて結成されました。力を合わせて、頑張りましょう。職員の皆さんも守る会への参加をお願いします。」と述べ、パワーポイント全29ページを見ながら取り組みを報告しました。医師や看護師から「守る会の皆さんによる様々な活動で力を与えてもらい、感謝しています。これからも元気に頑張るのでよろしく支援いただきたい。」との感謝の言葉が出されました。

小口寿夫先生講演：大町病院はすごい

医師1人あたりの医療収入はダントツ県下1 大町病院は頑張っている胸を張れ

11月15日、大町病院主催の講演会が開催され、諏訪日赤病院などの再建を果たした小口寿夫先生を講師に1時間余りにわたり講演がありました。「赤字解消には病院職員の意識改革が大事だ。週刊ダイヤモンド誌によれば頼れる病院ランキングで大町病院は21位で県立2病院より上位にランクされ、前年度より成績も向上している。医師1人あたりの診療報酬高も2億1千8百万円で2位以下をはるかに離し、県下一の働きをしている。しっかりと胸を張って頑張っていこう。医師はなかなか増えない。やめないように配慮した対策をしていかなければならない。」と指摘、激励をしてくださいました。



バージョンアップイルミネーション点灯 患者さん・職員の皆さんを激励と癒し



12月5日午後5時から病院駐車場にそびえる25mのもみの木にセットされたイルミネーションに点灯がされました。点灯式は北村会長のあいさつで始まり、神社石庵さんのオカリナで雰囲気盛り上げていただきました。点灯式には職員、守る会会員など約50名が見守るなか山田博美事業管理者、井上博善院長、北村喜男守る会長、相沢文人副市長（市長代理）がカウントダウンに合わせ、スイッチを押すと一斉に青、赤、オレンジなどのLEDの小さな電球2000個がともり、大きな歓声が上がりました。



北村喜男会長あいさつ要旨

昨年に続いて12月1日に十日会と守る会の皆さまによりイルミネーション設置をいたしました。患者の皆様へ癒しのプレゼントをおくることで気持ちを明るくしていただき、1日も早い回復を願うところでもあります。

医師、看護師、コメディカル、職員の皆さんには大北地域の基幹病院である大町病院を連日夜遅くまで支えていただいている御苦労に対してのお礼と癒しのプレゼントでございます。

今年は電飾を800個増やし、2000個にいたしました。イルミネーションがだんだん立派に大きくなったように大町病院にある25mのもみの木のイルミネーションが大町の風物詩になればと思います。

イルミネーションセット十日会の皆さんに感謝

12月1日、午前9時から守る会役員・会員と十日会の皆さん13名が集まり、もみの木にイルミネーションが設置されました。会員は電球が連なる電線をラインに伸ばし、木につるすための配線を手伝いました。十日会の方が高所作業車を使い手際よく枝にセットしていきました。今年は更にLED電球が増設されました。二年目ということもあり、手なれた作業で正午には終了しました。お疲れさまでした。



SBC テレビが27日報道 「医師・職員確保の ための守る会の活動」

SBC テレビでは県下でも数少ない病院を守る活動を進める「大町病院を守る会」を11月のジビエ歓迎会、12月のイルミネーション点灯式などを取材して特集報道を企画しています。放映は1月27日18時15分からです。多くの皆さんの視聴をお願いします。



会費の納入をお願いします・・・

24年度分、25年度分会費の未納の方には請求書を同封しました。封筒等へ記名、年度を明記の上、大町病院1階の受付カウンターにおいて医事課 高橋（健）主任に預けてください。お願いします。新規会員も募集中です。加入希望者がいましたら紹介ください。会報は病院の各科受付付近に置いてどなたでもご自由におもといただけます。

インターネットに会報が掲載されています。御覧ください。

守る会会報1号から29号までがインターネット上に掲載されています。「市立大町総合病院ホームページ」の右側下段の「病院を守る会」バナーをクリック、または「市立大町総合病院を守る会」で検索してみてください。会報がカラー写真で掲載されています。

この会報は大町市きらり輝く協働のまちづくり支援金制度の助成を受けて作成されています。